

京都大学大学院 教育学研究科紀要

第46号

「心の理論」獲得前後の他者の心の理解過程
 高等教育における「知」の再構築の動向
 ブルネイ王国の言語・価値教育政策
 「部分均衡モデル」を用いた地方教育費支出水準決定要因の検討
 表情が発話解釈に及ぼす影響
 子どもの二言語同時習得における言語的認知要因と環境要因の検討
 身体像に関わる自己構造と心理的適応について
 自己評価規定要因の表出難易度と妥当性における自己評価と自己意識の影響
 聞き手に対して配慮するメッセージ
 児童期における読解に関するメタ認知的知識の発達
 子どもの描画活動における「動き」の表現の発達とナラティブ描画
 デザインにおける説明—発見機能及び収束—拡散機能
 認知活動に対する聴覚刺激の影響
 選択的注意における知覚的負荷の影響
 気分一致効果研究における方法論上の問題
 言語陰蔽効果研究に関する展望
 アメリカにおける教育人類学研究の発展
 男女交際・コートシップ
 マイケル・ホランニーの知識論からみた型の学習
 欲望する諸機械の中で生きる子ども
 キルケゴール『イロニーの概念』におけるソクラテス像
 葛藤の治療論について
 摂食障害についての一考察
 防衛機制の適応的意味
 言語連想検査における連想の論理的分類について
 セラピストの変性意識状態に関する一考察
 ヴァン・マールンにおける「生きられた経験」の現象学的探究
 アメリカ・ヘルバルト主義における授業形態論の変遷
 棚橋源太郎の「郷土」親に見る初等理科教授の構想についての考察
 食事場前における1歳児と保育者の相互作用
 2歳児の描画における形と命名の生成過程
 中途障害者が語る障害の意味
 多声的時空間におけるアイデンティティ構築

京都大学大学院教育学研究科紀要 第46号

目 次

論 文：

「心の理論」獲得前後の他者の心の理解過程 ……………	子安増生・服部敬子・郷式 徹	1
— 事例分析による検討		
高等教育における「知」の再構築の動向 ……………	江 原 武 一	26
— アメリカの大学を中心に		
ブルネイ王国の言語・価値教育政策 ……………	杉 本 均	42
— シンガポール・マレーシアとの比較の視点から —		
「部分均衡モデル」を用いた地方教育費支出水準決定要因の検討		
……………	高 見 茂	60
表情が発話解釈に及ぼす影響 ……………	木 村 大 生	74
子どもの二言語同時習得における言語的認知要因と環境要因の検討		
……………	許 佳 美	84
身体像に関わる自己構造と心理的適応について ……………	田 中 久美子	96
自己評価規定要因の表出難易度と妥当性における自己評価と自己意識の影響		
……………	水 間 玲 子	107
聞き手に対して配慮するメッセージ ……………	山 内 加代子	120
— ポライトネス理論の検討		
児童期における読解に関するメタ認知的知識の発達 ……………	西 垣 順 子	131
子どもの描画活動における「動き」の表現の発達とナラティブ描画		
……………	平 沼 博 将	144
アナロジーにおける説明—発見機能及び収束—拡散機能 ……………	羽 野 ゆつ子	157
— 創造的思考の研究に向けて —		
認知活動に対する聴覚刺激の影響 ……………	宮 原 道 子	170
選択的注意における知覚的負荷の影響 ……………	室 井 み や	183
— 知覚的負荷とは？ —		
気分一致効果研究における方法論上の問題 ……………	伊 藤 美 加	196
言語陰蔽効果研究に関する展望 ……………	北 神 慎 司	209
アメリカにおける教育人類学研究の発展 ……………	大久保 祐 子	222
— 社会・文化人類学を中心に —		

男女交際・コートシップ	デビッド・ノッター	235
— 「純潔」の日米比較社会史 —		
マイケル・ポランニーの知識論からみた型の学習	岩井哲雄	248
— ヘリゲル著『弓と禅』を手がかりに —		
欲望する諸機械の中で生きる子ども	森田裕之	261
— ドゥルーズニガタリ『アンチ・オイディプス』を手がかりとして —		
キルケゴール『イロニーの概念』におけるソクラテス像	山内清郎	274
— 教師としてのイロニカー, イロニカーとしての教師		
葛藤の治療論について	西隆太郎	287
摂食障害についての一考察	橋本尚子	300
— 空虚感を中心に —		
防衛機制の適応の意味	壁屋康洋	313
— ロールシャッハ・テストを用いて		
言語連想検査における連想の論理的分類について	足立正道	325
セラピストの変性意識状態に関する一考察	廣瀬幸市	336
ヴァン＝マーネンにおける「生きられた経験」の現象学的探究	村井尚子	348
アメリカ・ヘルバルト主義における授業形態論の変遷	藤本和久	361
棚橋源太郎の「郷土」観に見る初等理科教授の構想についての考察	岩崎紀子	374
— 東京高師附小における理科教授法の理論的構築 —		
食事場面における1歳児と保育者の相互作用	河原(中村)紀子	386
2歳児の描画における形と命名の生成過程	藤野友紀	399
中途障害者が語る障害の意味	田垣正晋	412
— 「元健常者」としてのライフストーリーより —		
多声的時空間におけるアイデンティティ構築	保坂裕子	425
— アイデンティティ研究におけるナラティブ・アプローチの可能性について —		

平成11年度修士論文

氏名	論文題目
荒木 寿友	L.コールバーグにおける道徳論と共同体形成 — ジャストコミュニティの分析を中心に —
石井 恒生	ブライミング法を用いた漢字語の音韻処理の特性の検討
稲垣 ゆかり	寮歌にみる旧制高校文化
開沼 太郎	計量分析による私立学校助成政策の検討 — 一般財源化に伴う政策変動とその影響の評価 —
川妻 篤史	会話分析における社会学的問題構成の継承/断絶 — 「エトセトラ問題」をめぐって —
金田 茂裕	多数解を持つ文章題における小学生の解および評価
渋谷 愛子	ゲーテのメタモルフォーゼにあらわれた人間形成観
下田 浩子	アイデンティティ形成に与える現在と将来のサポート認知の影響 — 薬剤師実習におけるアイデンティティ形成モデルの検討 —
出口 英樹	「市場化」の推進と大学の組織形成 — 日本における産学協同組織の形成及び拡大過程とその要因 —
中井 裕之	コナトッス論に見るスピノザの人間形成思想
中沢 哲	カント道徳教育思想の研究
西谷 美和	表情と視線が顔の再認記憶に及ぼす影響
林 創	問題解決における再帰的思考の役割
藤田 志穂	生活史にみる共働き夫婦の結婚・子育て・就労
堀川 学	大西忠治における「学級集団づくり」の指導過程論
宮崎 元裕	政教分離とイスラーム — トルコの宗教教育を事例に —
薬師院 はるみ	司書をめぐる専門職論の再検討
山縣 宏美	生徒の科学的概念の獲得のプロセス — 素朴概念と科学的概念の統合に必要な知識の検討 —
若林 身歌	現代ドイツにおける環境教育論の展開 — 「エコ教育学」の教育方法論的検討を中心に —
敵 平	明治前期における国民道徳論の研究 — 森有礼の場合
楊 突	現代中国における美育の理論と実践に関する一考察 — 西南地区小学校大美育系統論を中心にして —
ベリ ファリナ	言語の再生と社会の支配的な教育との関係 — アイヌ（日本）とペモン（ヴェネスエラ）先住民族を事例として —
高 敏 裕 樹	アメリカ公立図書館におけるインターネット・パブリック・アクセスとその利用方針

橋田 裕	地域における教育参加組織の機能と地方教育行政の役割 — 学校・家庭・地域・行政の「協働」に着目して —
山崎 貴世	ピアノ経験の有無が音楽の主題と展開の類似性判断に及ぼす影響の検討
土井 香代	ジェンダーポリティクスの視点からみた父親イメージの研究 ：アメリカにおける父親研究の動向をもとにして
張 道杰	公民館活動における職員の役割
青木 保憲	W.ジェイムズの根本的経験論研究
今西 徹	他者の表現するイメージとの関わり方について
桑原 晴子	青年期の「ひとりである」ことを支えるもの — 関わりの志向性とその背景にある不安との関連から —
駿地 眞由美	親との死別を通しての心の営みについて
鶴賀 久仁子	外界への過剰適応と“ひとり”でいることの感じ方に関する研究
土井 真由子	身体症状を抱える人の心理学的体験様態についての一研究 — TATにおいて語られるものを通して —
仲 淳	心理療法過程における、自らの描画への関わり方について
西堀 智香子	樹木画場面における、自らの描画への関わり方について
細川 伸子	青年期の自己調節のあり方と信頼感との関連
牧 剛史	夢の内的構造と物語 ～反復される夢のPAC分析を通じて～
松山 真弓	「感じ」のとらえ方についての一考察
大西 京子	子ども時代と闇についての心理学的一考察
高木 聡	生徒「理解」に関する一考察 — 「事例」にもとづく自己言及をとおして —
陳 淑敏	デュ－イ教育学における学校論についての考察 — 仕事論を手がかりに
武藤 誠	風景構成法におけるアイテムの選択過程に関する一考察

(合計42名)

平成 11 年度 卒業論文

氏 名	論 文 題 目
荒 田 和 音	総合的な学習の時間の可能性と問題点 ～英国のトピックワークとの比較を参考に～
伊 賀 里 子	“感じる”ということ
大 貫 ルリ子	異文化間教育 —— ドイツにおける歴史的展開と実践 ——
三本松 賢	シュタイナー学校とその音楽教育
高 野 秀 晴	マス・ログとリテラシー —— 盤珪禅師の「語り」を手がかりに ——
丹 野 加奈子	能楽論における「型」の思想
中 村 宰 理	食の贈与
濱 田 亜 紀	オープン・スクールの理論と実践
日 高 由 貴	芦田恵之助の授業観
森 岡 浩 子	オランダにおける麻薬乱用防止政策と教育理念
伊 東 周 晃	身体と教育
平 良 久美子	臨教審における「個性」概念の一考察
青 木 利世子	シュタイナーの人間観と教育方法 —— 第 2・7 年期の教育方法を中心にして ——
石 井 英 真	斎藤喜博の教育技術論に関する一考察
品 川 政 之	ライフストーリーにみる父親像と子どもに対する父親意識
柴 本 枝 美	明治期高等女学校における良妻賢母の教育についての一考察
渡 辺 貴 裕	福祉教育の現代的課題 —— 福祉「副読本」の分析を通して ——
伊 藤 実歩子	オーストリアにおける戦間期学校改革 —— オットー・グレッケルの改革方針を中心にして ——
赤 松 麻 衣	日常・非日常イメージについての調査研究
阿 部 宏 美	共感性の発達と自己愛 —— 共感「する」と「される」の視点の相違を通して ——
磯 貝 あずさ	色の相対的距離が視覚的注意に及ぼす影響
大 隅 健 志	嫉妬における感情経験の兄弟姉妹関係とその年齢差による違いの研究 —— 中学生の家族関係・友達関係場面を通じて ——
川 部 哲 也	既視体験における体験内容とその解釈についての一考察
佐 藤 史	発達の観点からみた大学生の無気力
里 見 聡	対人不安が他者からの評価的発話の理解に及ぼす影響 —— 特にアイロニーの観点から ——
白 川 葉 子	自我境界の性質と「さわられること」による身体感覚との関連について

鈴木 亜由美	幼児の自己調整機能の発達 — 自己主張行動と自己抑制行動から —
田中 知宏	自己愛性人格傾向と他者に対する過敏さとの関係について
戸田 ゆかり	楽観的思考・悲観的思考が課題遂行に及ぼす影響～原因帰属に注目して～
鳥生 知江	箱庭制作過程に関する研究 — 箱庭制作後の面接調査における語りを手がかりとして —
鳥川 智史	過去・現在・未来の統合度と顕在性不安の関係 — 高校生を対象として —
福島 えりか	青年期を通じてみられる境界性の諸相
藤本 麻起子	摂食障害者の心理についての一考察 — 「現実の受け容れ」と「自律性」に着目して —
古野 裕子	過換気症候群患者に関する心理学的考察 — coping styleからみて —
吉水 はるな	「イルカ」イメージに関する研究 — SD法及び箱庭を用いて —
奥田 賢一	「自明性のゆらぎと創造的態度」
久保田 美法	「古い」に聴く
高嶋 雄介	中高年期における「死」イメージ・一般的統制感と死に対する不安・態度の関連性
小林 睦	個人的要因が教師のM機能認知に及ぼす影響について
岸本 英樹	現代社会における進学塾の機能
木村 龍	教育投資の効果に関する一考察 — 日本の高等教育がもたらすもの —
永吉 真実	女性の社会進出と食生活
松政 雄二郎	『旧武士の名誉意識と上昇指向』
山本 留巳子	現代消費社会における自己とファッション — 三宅一生を手掛かりとして —
都村 聞人	ノルマリアンと「知識人」と誕生
西村 大介	「エリート大学におけるフットボール部の位置と変容」
吉井 雅人	デリダの思考の転回と政治的なもの
久戸瀬 瑞季	「司書の採用・制度について」
竹内 芳朗	『戦後責任』と今後の歴史教育の在り方。
榊原 崇仁	オンブズマン制度の教育政策関与の機能 — 川崎市市民オンブズマンを手がかりに —
谷村 綾子	教育におけるノーマリゼーション概念の理解
藤岡 裕美	生涯学習の基本理念に関する政策的課題 — 市町村の生涯学習政策を事例として —
松本 留奈	遠隔教育に関する研究 — ネットワーク類型とコスト分析 —
村上 あき	基礎教育の開発援助に関する研究 — 援助理論の展開と「基礎教育資本整備モデル」の検証 —
森川 隆央	高等教育機関に対するインフォメーション・テクノロジーのインパクト — 大学運営における技術革新と教育・経営機能の変容 —

(合計55名)

執筆者紹介（執筆順）

子安 増生	本研究科教授（教育認知心理学講座）
服部 敬子	日本学術振興会特別研究員
郷式 徹	博士後期課程3回生（教育心理学講座）
江原 武一	本研究科教授（比較教育政策学講座）
杉本 均	本研究科助教授（比較教育政策学講座）
高見 茂	本研究科助教授（比較教育政策学講座）
木村 大生	博士後期課程3回生（教育心理学講座）
許 佳美	博士後期課程3回生（教育心理学講座）
田中 久美子	博士後期課程3回生（教育心理学講座）
水間 玲子	博士後期課程3回生（教育心理学講座）
山内 加代子	博士後期課程3回生（教育心理学講座）
西垣 順子	博士後期課程2回生（教育認知心理学講座）
平沼 博将	博士後期課程2回生（教育認知心理学講座）
羽野 ゆつ子	博士後期課程1回生（教育認知心理学講座）
宮原 道子	博士後期課程3回生（視聴覚教育講座）
室井 みや	博士後期課程3回生（視聴覚教育講座）
伊藤 美加	博士後期課程2回生（教育認知心理学講座）
北神 慎司	博士後期課程1回生（教育認知心理学講座）
大久保 祐子	博士後期課程3回生（比較教育学講座）
デビッド・ノッター	博士後期課程2回生（教育社会学講座）
岩井 哲雄	博士後期課程2回生（臨床教育学講座）
森田 裕之	博士後期課程2回生（臨床教育学講座）
山内 清郎	博士後期課程1回生（臨床教育学講座）
西 隆太郎	博士後期課程3回生（教育臨床心理学講座）
橋本 尚子	博士後期課程3回生（教育臨床心理学講座）
壁屋 康洋	博士後期課程2回生（心理臨床学講座）
足立 正道	博士後期課程3回生（教育臨床心理学講座）
廣瀬 幸市	博士後期課程1回生（心理臨床学講座）
村井 尚子	博士後期課程1回生（教育学講座）
藤本 和久	博士後期課程2回生（教育方法学講座）
岩崎 紀子	博士後期課程1回生（教育方法学講座）
河原(中村)紀子	博士後期課程2回生（教育方法学講座）
藤野 友紀	博士後期課程2回生（教育方法学講座）
田垣 正晋	博士後期課程1回生（教育方法学講座）
保坂 裕子	博士後期課程1回生（教育方法学講座）

編集委員 川崎良孝 天野正輝 河合俊雄
編集員 西尾新 保田卓 佐々木承玄
松浦ひろみ

平成12年3月25日 印刷

平成12年3月31日 発行

発行人 京都大学大学院教育学研究科
代表者 竹内洋

印刷所 創文堂印刷株式会社
福井市問屋町1-7

発行所 京都大学大学院教育学研究科
京都市左京区吉田本町

Kyoto University Research Studies in Education

No. 46

Contents

Processes of Understanding Other's Mind before and after the Acquisition of "Theory of Mind" KOYASU Masuo, HATTORI Keiko, & GOUSHIKI Toru
Restructuring <i>Knowledge</i> in American Higher Education EHARA Takakazu
Language and Values Education Policy in Brunei Darussalam SUGIMOTO Hitoshi
A Study of the Determinate Factors on the Level of Local Educational Expenditures by "Partial Equilibrium Model" TAKAMI Shigeru
The Effect of Facial Expression on Utterance Interpretation KIMURA Taisei
On Linguistic-Cognitive and Environmental Factors for a Child's to Learn Simultaneous Bilingualism KYO Yoshimi
Self-structure in Relation to Body Image and Psychological Adjustment TANAKA Kumiko
An Effect of Self-evaluation and Self-consciousness on the Difficulty and the Effectiveness of Presentation about Factors of Self-evaluation MIZUMA Reiko
Messages Taken into Consideration the Addressee YAMAUCHI Kayoko
Children's Development of Metacognitive Knowledge about Reading Comprehension NISHIGAKI Junko
Children's Development of Drawing of 'Motion' and Narrative Drawing HIRANUMA Hiromasa
Explanation-discovery Function and Convergent-divergent Function of Analogy IIANO Yutsuko
The Effect of Auditory Stimuli on Cognitive Activities MIYAHARA Michiko
Effect of the Perceptual Load in the Selective Attention MUROI Miya
Some Methodological Issues on the Mood-congruent Effect ITOH Mika
A Review of the Verbal Overshadowing Effect KITAGAMI Shinji
The Development of Anthropology of Education in the U.S. OKUBO Yuko
Courtship and the Modern Family in Japan and America David NOTTER
Form Learning Seen from Michael Polanyi's Epistemology IWAI Tetsuo
L'enfant qui vit parmi les machines désirantes MORITA Hiroyuki
Bild des Sokrates in Kierkegaards "Über den Begriff der Ironie" YAMAUCHI Seiro
On the Therapeutic Theory of Conflict NISHI Ryutarō
A Study on Eating Disorders HASHIMOTO Naoko
Adaptive Meanings of Defense Mechanisms KABEYA Yasuhiro
On the Logical Classification of Associations in the Word Association Test ADACHI Masamichi
A Discussion on the Therapist in Altered States of Consciousness HIROSE Koichi
Phenomenological Research of "Lived Experience" in Van Manen MURAI Naoko
A Study of the American Herbartianism: The Change of Teaching Style FUJIMOTO Kazuhisa
One Aspect of the Idea of the Elementary Science Education from the Point of Gentarō Tanahashi's "Heimat" View IWASAKI Noriko
Toddler-caretaker Interactions at Lunchtime in the Day Nursery KAWAHARA (NAKAMURA) Noriko
A Generative Process of Drawing and Naming in 2-year-old Children FUJINO Yuki
The Meaning of Disability in the Narratives by People Who Acquired Disabilities TAGAKI Masakuni
Identity Formation in the Polyphonic Chronotope HOSAKA Yuko

Graduate School of Education
Kyoto University
March, 2000